



# 議会だより

## おいしい米づくり



9月定例議会 関川村で初めて“PFIで若者向け共同住宅”…………… 2～3

一般質問 2名登壇 ～村政をただす～ …………… 4～5

視察研修報告「野菜王国」と「EM自然農法」…………… 6～7

村民の声 「未来の関川村と私たち」…………… 8

## 9月定例議会

### PFIとは…

「PFI(Private Finance Initiative: プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)」とは、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う新しい手法です。

# 向け共同住宅

9月定例会が9月7日から16日まで10日間の日程で開かれました。上程された議案は報告1件、決算認定2件、条例改正1件、過疎計画案件1件、補正予算案件5件、最終日に補正予算1件、契約変更案件1件が追加され、それぞれ原案どおり承認及び可決されました。陳情2件が採択され意見書を提出しました。一般質問は2名の議員が行いました。

### 平成21年度 決算認定される

平成21年度決算が監査委員の意見書とともに提出され特別委員会(委員長 須貝謙一)へ付託され2つの分科会で分割審査された後本会議で承認されました。

### 若者向け共同住宅 用地取得

役場職員の提案によりかねてから計画されていた若者向け共同賃貸住宅の用地



若者向け共同住宅建設予定地

を取得しました。土地開発公社で取得した分のうち必要となる面積を今回購入します。場所は紫雲電気の工場跡地です。この事業は関川村で初めてPFI事業として行われます。事業主体となる業者は公募しプロポーザル方式(提案型)で選定されます。単身者用7戸、子育て世

帯用5戸の建設を予定しています。入居者の所得制限はありません。PFI事業に必要となるリース契約の為に一般会計補正予算で債務負担行為の議決もされました。平成22年度から32年度までの10年間になります。金額は別にリース契約で定める額となります。



# 質 問



渡辺 健作 議員

**議員** 地球温暖化防止について。

平成16年頃実施した雪室実験の目的とデータは。

将来公共施設に雪室冷房を導入する考えは。

**村長** 目的は貯蔵した雪で家庭用冷房機の室外機を冷却して冷房効果を上げ省エネを図ること。雪山の大きさは底辺20メートル四方、高さ4メートル、上の面積は8メートル四方の台形で、もみ殻とシートで覆って保存した結果、5カ月以上経過しても貯蔵可能であるとの結果が得られた。

将来公共施設に

導入する考えはない。  
**議員** 雪室についてはデータを見るかぎり利用できそうだと理解した。公共施設に利用できないかとは、ゆるむを改装するという事なので、それに合わせて雪室冷房を導入する考えがあるか。

**村長** いろいろ問題があるので今のところ導入する考えはないが、雪に限らず、自然エネルギーを活用することは今後も検討していきたい。



雪貯蔵実験

## 雪室冷房を公共施設に取り入れては導入する考えはないが、自然エネルギーの利活用は検討していく

### 米沢街道地域づくり検討委員会の活動や進捗状況を見ながら柔軟に取り組み

**議員** 米沢街道地域づくり検討委員会について。

農林水産省の補助事業である「農山漁村地域力発掘支援モデル事業」として「元

気づく湧く協議会」への補助金700万円は事業仕分けで廃止になったが、村として今後も支援していくのか。

国土交通省の補助事業である「建設業と地域の連携で築く米沢街道再生事業」への補助金2,000万円は建設業協会が独自で実施するものなのか。村として何らかのかかわりをもつものなのか。  
現在、私有地である上関城址を公園として使用する考えは。

**村長** 国の補助金が廃止されたので、既に交付した

村単独の補助金210万円を財源として協議会の活動を継続してもらいたい。また、村としても活動の支援を考えている。

8月に補助金の交付決定があり、事業の具体化に向けて定期的に検討会議を開催している。この事業は建設業協会が独自で実施するのではなく、構成メンバーとして村・建設業協会・森林組合・米沢街道地域づくり検討会となっている。

上関城址は村にとつても貴重な歴史的資源である。所有者の了解が得られるなら、取得するのめやぶさかでない。公園として利用するのも選択肢の一つである。

**議員** 米沢街道地域づくり検討委員会が立ち上がり熱心に活動しているが、ボランティア的要素が多いと聞く、米沢街道を活性化させるのであれば、今後も補助していく必要があるのではないか。

**村長** 米沢街道への今後の予算であるが、この会の進捗状況を見ながら柔軟に取り組んでいきたい。



旧米沢街道

# 般



渡辺 秀雄  
議員

## 火災警報器の普及に徹底指導を 色々な機会に普及啓蒙に努めていく

**議員** 23年5月までに住宅用火災警報器の設置が義務付けられたが、当村の現状はどうなっているか。推計普及率について。

防火指導について。

**村長** 現在、村の消防団によって状況調査を行っており、来月には状況が把握できる。県の推計によると当村含め村上地域は6月現在35.8%となっている。全国の住宅火災で亡くなる人の6割が高齢者である。当村では普及を推進するため、希望する世帯に無償で警報器を設置

する予算を計上した。その対象世帯は村民税が非課税で75歳以上の高齢者のみの世帯や一定以上の障害者のいる世帯など約250世帯。村の消防団による消火器点検などのほか広報紙や広報無線で啓蒙に努めている。また、各集落の自主防災会を通じて啓蒙をお願いしており、今後は住宅用の火災警報器の普及と併せて防火意識の一層の向上を図っていく。



住宅用火災警報器

**議員** 火災の早期発見、初期消火により生命や財産を守り、逃げ遅れを防ぐために火災警報器の普及には徹

底した指導が重要だと考えるが、コミュニケーションや集落単位で説明会を実施してはどうか。

**村長** PR方法を参考にし、色々な機会に普及啓蒙に努めてまいりたいと考えている。

## 村の活性化に高速道路無料化のチャンスを活かせるPR活動を見直しゆゑの改築を含めて検討する

**議員** 新潟中央ICから荒川胎内ICの区間の高速道路料金が無料となっている

が、このチャンスを活かしてPR活動を強化して村の活性化を図るべきではないか。

また、大したもん蛇まつりでは約6,000人の来村者があった。今後は村の観光に役立てられるように、村職員や温泉旅館の人たちにも勉強の機会を作り、チャンスを活かす機会に活かしたいと考えている。

**村長** 高速道路料金の無料化社会実験により色々影響が出ている。国道113号線の交通量が前年より10%以上増加という国土交通省のデータがある。それに伴って当村へのお客も増加傾向にあり、なかでも日帰り温泉ゆゑの7月入館者数は前年より12%増加した。

また、今までのPR活動を見直すなど、道の駅桂の関を拠点として村の産業の発展や村の活性化促進に取り組みたいと考えている。その一つとして、お客様からのアンケートの回答などを基にゆゑのリニューアル



高速道路無料化実験中

# 報告

## 7月27日・28日

### 住民と協働で自立の村づくり！

### 「野菜王国」昭和村（群馬県）

### 厚生常任委員会

#### 昭和村の概要

赤城山麓に広がり、耕土の大部分は火山灰土。こんにゃくと高原野菜の産地で知られており、豊富な野菜と豊かな自然が魅力。基幹産業は農業。

人口 7,785人  
世帯数 2,268世帯



#### 自立への取り組み

住民と行政との協働による行政運営の推進、優良企業の誘致、若者の定住施策事業の実施。また、事務事業の一般的な見直しによる行政経費の削減に取り組んでいる。



5,000人分のこんにゃく鍋

#### 農・林・水産業振興

新鮮で安全安心な農作物の供給を目指し、低農薬農産物の生産を促進している。更に、農地の集約化や基盤整備による経営規模の拡大と生産性の向上と併せ、担い手の育成・確保を図っている。

#### 昭和村づくり協力委員会

平成5年から協力委員会を設置し、村政全般に対する提言や要望などを審議検討している。委員は20名以内で任期は4年。村長が委嘱し、原則として再任しない。

#### 昭和村ふるさと大使

自薦他薦問わず村長が委嘱役割は村の魅力を外にPRすること。それにより、新たなパワーを村へ呼び込み、意欲や提言もいただく。

#### まとめ

自立の村づくりに向けて、住民と協働により行政運営を推進している。特に村づくり協力委員やふるさと大使を設けたことは、村づくりにかける住民の意思と団結の表れだと感じた。また、昭和インタ―開設と合わせて工場用地を3地区整備し、優良企業の誘致に努力してトップ起業の進出が実現したことは、地域産業の活性化と雇用確保など、多面的に村の活力へとつながっていた。



# 視 察 研 修

## 消費者目線で事業拡大!

### 「EM自然農法」和田農園 (千葉県)

#### 和田農園の概要

平成10年から本格的に農業を始める。平成18年東関東施設園芸協同組合設立。共同購入事業、共同販売事業、研修生の受け入れ事業等を行う。平成21年直売所開店。

#### 【耕作面積】

田	500a
イチゴ	40a
ぶどう	30a
トマト	5a
路地畑	20a

#### EM自然農法と直売所

肥料はこめかかとEM菌を混ぜたペレット状のもの。堆肥にもEM菌を入れている。EMの肥料等は、長く使用していると農薬や連作の障害が軽減され、イチゴやぶどう等の糖度が上がり、棚持ちが良い等の効果がでる。



安全で味のいい作物を、大勢の人に食べてもらいたいと、直売所でも販売。売り上げはお客様の好評を得て年々伸びている。直売所では、ふる里会をきっかけに交流が進んだ関川村の特産品も店頭販売している。



#### 今後の取り組み

昨年からイチゴ狩りなどの体験型農業を取り入れており、今年も稲刈り体験を行う予定。今後もジャガイモ、さつまいも、枝豆等の収穫体験型農業を企画し、お客様が満足できるようにする。加工食品にも力を入れていきたいと夢が膨らんでいる。

#### まとめ

健全な環境づくりに着目し、消費者目線で農産物を作ったり、体験型農業を企画したりしている。人とのふれあいを通じて農業の楽しさ重要さ、そして環境への配慮を働きかけていることは、学ぶべきことが多い。また、和田農園のように、他市町村の関係者に関川村の特産品を取り扱っていただくことで、村の素晴らしさを発信できる。



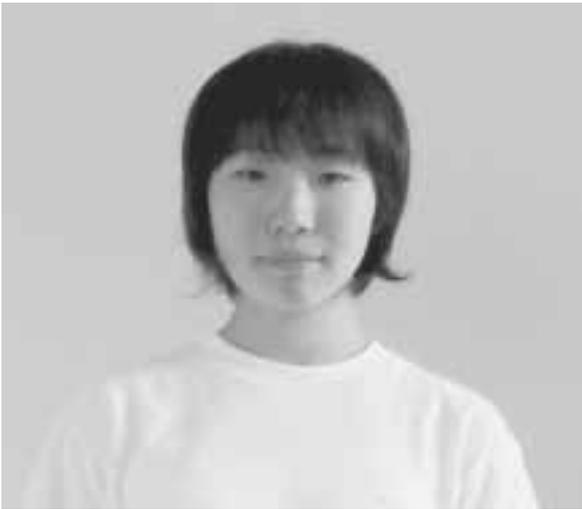
直売所

### 産業建設 常任委員会

# 村民の声

## 未来の関川村と私たち

関川中学校3年 **坂爪 喜子**さん  
(中 東)



私たち中学三年生は、二年生の時に修学旅行でフジテレビの「お仕事体験」をしてきました。めざましテレビ特別番組の製作です。その中のココ調というコーナーで流したVTRは、事前に中学校で録画したものです。テーマは、「私たち中学生は関川村をどう思っているか。」でした。リポーターがいくつか質問をし、生徒が答えるという内容です。

一つ目の質問は、「関川村は暮らしやすい地域だと思いますか。」でした。その質問に対し、「暮らしやすい。」と

答えた人は、三十七人中三十四人で、ほとんどの人が暮らしやすい地域だと思っ  
ていました。その理由は、「優しい人がたくさんいるから。」  
「自然が豊かだから。」などでした。

二つ目の質問は、「将来、関川村で暮らしたいですか。」でした。その質問に対し、「暮らしたい。」と答えた人は三十七人中十八人で、約半数でした。「暮らしたい。」と答えなかつた人の理由は、「就きたい職業の職場がないから。」などでした。

これらのことから、関川村は暮らしやすいところだけど、将来、就きたい職業によっては、関川村を離れて暮らそうと考えている人がいることがわかりました。

関川村は、毎年人口が減少し、高齢者が多い地域となつていきます。村の活性化のためにも、様々な伝統を引き継ぐためにも、若い人たちの人口を増やすことが大切だと思います。今回のことを通して、関川村に若い人を増やすためには、それらの人々の要求に応える職場が必要だということを感じました。未来の関川村が、今以上に元氣のあふれるところになつてほしいと思います。



新潟県町村議会議長会から長年の功績を称え表彰されました。

おめでとうございます。



近 良平議員

津野庄衛議員

### 編集後記

若者定住の促進を図るため、村が共同賃貸住宅を供給する。建物は民間企業が自己資金で建設。それを一括借り上げし、公営住宅として若い住民に転貸する。関川村に魅力を感じ、住み続けたい、あるいは転入を希望する若者が、元氣よく入居に名乗りを上げてくれることを期待したい。

村には若いエネルギーが

必要だ。農家の高齢化と減少、農業は深刻な状況にある。有形無形の文化財の伝承保存にもフットワークの良い若者の参加が望まれる。子ども達は生き生きとした若者達の姿を見て育ち、私達も安心感と希望を持つことができるだろう。

近年若者の農業、農村志向が注目されている。時代の流れにあった村の過疎化対策を大いに評価したい。

平田ゆ)